

京都府子育て支援審議会・京都府少子化対策審議会  
第5回合同審議会 開催結果

日 時 令和2年1月31日（金曜日） 午後3時30分～午後5時

場 所 京都ガーデンパレス 2階「葵の間」

出席者 秋田委員・伊豆田委員・伊藤委員・岩前委員・内山委員・岡崎委員  
櫛田委員・楠委員・定本委員・杉岡委員・杉本委員・高岡委員・田中(美)委員  
田村委員・中田委員・縄手委員・橋本委員・福井委員・藤井委員  
藤田委員・松井委員・松田委員・安田委員・吉貞委員・吉田委員

議事内容

(1)「京都府子ども・子育て応援プラン（仮称）最終案」の検討について

(主な意見)

□出会い・結婚期

- ・計画改定の趣旨において、「若者が結婚の希望を叶え」とあるが、若者が「結婚したい」と思えるような環境が必要だと感じる。若者がコミュニティに入り、人との触れ合いの中から「家族を持ちたい」「子どもを持ちたい」ということを実感するのではないか。

□妊娠・出産期

- ・今でも人工妊娠中絶が多いことに危機感を持っており、若年時からの妊娠に関する教育が重要だと感じる。特に専門職の女性に不妊症が多く、また高齢になってからでは妊娠しづらくなる。若年時からそのような知識を持ち、自身のライフプランを描くことができるような教育が重要。

□子育て期

- ・中学校で乳幼児ふれあい体験事業の様子を見たが、中学生が赤ちゃんや母親と触れ合うことで感動し、また、母親も赤ちゃんがかわいいと言ってもらえ、自分の苦勞を聞いてもらえる双方向の良い効果があった。

□子育てにあたたかい気運の醸成

- ・子どもたちを大人が地域でどのように育み、サポートしていくのか考え、行動につなげる視点が必要。
- ・地域の中で子どもをみんなで育てるという雰囲気づくりが重要。
- ・府・市町村のどちらがどのような役割を担うかを整理すべき。住民に近い市町村の役割が重要と考える。

□その他

- ・「計画の基本的視点」において、子どもについて「次代の親となるものとの認識」と記載があるが、誰もが親になるとは限らないため、「次代の子どもを育む担い手となる」等、誰もが当てはまる文言に変更した方が良いのではないか。